

フランス語検定試験TCFとは？



仏語学習者にとって、DELFDALFに比べてちょっと親しみが薄い印象のTCF。
いったいどんなものなのでしょうか？
今回はそのシステム、問題構成や受け方についてご紹介します。

” フランス語のTOEIC ”

TCFはDELFDALFと同じく、フランス政府（CIEP
国際教育研究センター）の認定する
ディプロム（Diplôme）で、**非ネイティブのフランス語能力を証明する公式資格**です。
フランス語圏での留学や就職を考えるに際し、たいへん役立つ資格といえます。感覚としては、DELFDALFが英語でいう「英検」
のようなものであるのに対し、TCFは「TOEIC」と考えるといいでしょう。

TCFは全員が同じ試験を受け、取れた点数だけのスコアが出るシステム。合否を決めるものではな

く、スコアによってDELFと同じ規準でA1～C2までのいずれかのレベル認定を受けることとなります。ただし、こちらはTOEICとちがい、出したスコアの有効期間は2年間です。

内容構成、受験のしくみなど



ベーシックなコースでは、筆記や口頭試験はなく、選択式の文章問題 écrit とリスニング orale のみ、全76問で、各分野699点満点、試験時間は1時間25分。オプションで筆記等も追加可能です。

紙の問題冊子で受ける従来の方法に加え、SO (Sur Ordinateur) といって、パソコン上で受ける方法もあります。こちらは、全く同じ内容ですがベーシックなコースで全91問、試験時間は2時間です。

試験会場は全国9都市にあり、各都市によって異なりますが、年に数回の試験が行われます。(東京で5回、大阪で4回など。)SOは東京・大阪のみでの実施となっています。

このほか、フランスの国立大学の一年次出願等に必要とされるTCF DAPというものがあります。こちらは通常の76問1時間25分に加え、文書作成の補足試験を受けることになり、日本では年に一度、2月に全国3都市のみで実施されています。

申し込み方法など

TCFを受験するには、各試験センターへ直接出願します。通常のTCFは試験日の1ヶ月前まで、TCF SOの場合は10日前

まで出願が可能です。試験日程、出願方法、受験料などは各試験センターによって異なりますので、よく確認しましょう。会場と時期によっては席が埋まってしまうこともあり、早めに申し込みするのがよさそうです。

いずれの試験も、正式な結果がくるのは約1ヶ月後。CIEPの発行する正式な証明書を受け取ります。こちらの受け取り方も、各試験センターによって異なります。

ただし、SOの場合はL'attestation provisionnelle といって、結果速報みたいなものがその場でもらえます。大学への出願や就職先への提出などで、とにかく早く結果が必要！という人には、こちらがおすすめです。

まとめ

”フランス語版TOEIC”とも言うべき、公式実力認定試験TCF。今回は、じっさいに受けてみた印象をまとめた体験記をお送りします。

DELF/DALF日本オフィシャルサイト http://www.delfdalf.jp/tcf_jp.htm

Campus France日本オフィシャルサイト <http://www.japon.campusfrance.org/ja/certifications-jp>

在日フランス大使館オフィシャルサイト <http://www.ambafrance-jp.org/TCF>

オンラインフランス語学校
ENSEMBLE EN FRANÇAIS
アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

